



原田 健志

学校跡地利用 (地域利用・学習教育・防災)

各小中学校の跡地利用・活用について町の考えを伺い、提言をおこなった。

ど検討してみたいかがか。収納できない分を廃棄するより有効に活用すべきではないか。

能勢の子供は、家庭学習時間が短いことが一つの課題である、新学校内に放課後学習場所をつくっても、バスの時間帯が過ぎれば迎えに来て下さいいでは、とくに東の需要は限られるのではないかと、各校に図書室、自習室のような空間を設置すべきではないか。

高校の寮にするならば寮生が子供らを教える塾なども考えられる。国内・外の子が入寮すれば子供たちにとっていい意味で多くのことを習うことも可能では。

このようなアイデアはいかがであるか。

(町長) 十分に考えられることではあると思う。(教育長) 教育委員会と

歌垣小学校は、建物も新耐震基準である。例であるが、各学校から余ってくる本棚・書籍類を寄せ図書室をつくるな

学校再編について、新校がうまくいったとしても、各地域にとつてプラスの言葉が出てこなければ、半分積み残したまま、地域が残ったままだけになってしまう可能性を危惧する。

学校跡地利用について、危険されるとおもう。学校跡地利用については、来年度から二、三年以内に解決していかなければならない。いつまでも放置することは考

では、学校の跡地は地域の方に有効活用していただきたい。

提案のような件は、柔軟な形で子供たちにとってよりよい方法を様々な角度から考えていく。

避難所整備の基本的な展望について

能勢町地域防災計画では、現在12カ所の避難所の指定を行っており、そのうちの8カ所が小中学校である。防災計画における地震の被害想定では、被災後の避難生活者の数は22人という想定をしている。耐震性のある体育館を基本に、さらに今後見直しを行っていく

(要望) しっかりと情報が伝わるように、避難所運用をしていただきたい。

一般質問



西河 巧

地方創生、地域の活性化に向けて、能勢町の町づくりについて

地方創生、地域の活性化に向けて、能勢町の町づくりについて

問 少子高齢化、人口減少が進む中において、若者が住みたくなくなるような町づくりについて、働く場所の確保や、住宅の確保、子育てしやすい環境づくりについて伺う。



答 地方創生を進めていく上において、人口減少社会の克服に向けた対応を進めていくことが急務であると認識している。本町保育サービスや医療費助成等の子育ての支援施策、大自然の中で子供



をのびのびと育てる環境。このような能勢町の魅力面を町内外にアピールし、Uターン策やワーキング・ライフ・バランスの実現など諸施策との連動を図るなかで、若者が住みたくなるような町づくりに取り組んでまいりたい。

問 地域資源の活用について、本町には農業をはじめ、山林資源、観光資源など多くあるが、どのような活用を進めているのか、伺う。

答 本町の地域資源を一言で表現するならば、都市にない豊かな自然の風景や人々の営みから感じられる空気感であると思う。グリーンツーリズムの視点で味覚狩りやキャンプ、そしてハイキングなど、農林資源に加えて浄瑠璃をはじめとする文化的資源などを、地域の皆様のお力をお借りして、磨き、際立たせ融合させることが非常に重要であると考えている。

